

科目名		データベース論 I (Database Systems I)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第4学年	経営情報学科	履修	1単位	必修	演習	前期 90分/週	30時間		
担当教員		【常勤】内田 保雄							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	データベースは、共通に利用できる情報を大量かつ体系的に保存したものである。最近の経営情報システムは、データベースを中心として構築することが通例になっている。データベースの理論と応用を講義するとともに、サンプルデータベースをもとにデータベースソフトを用いて、データベースシステムの作成と活用の演習を行ない、実用的なデータベースの構築技法を修得することを目的とする。 データベースの概念を理解し、データベースの環境が利用でき、基本的なデータベースが構築できるようになるのが到達レベルである。								
学習・教育目標	(D)①	JABEE基準1(2)		(d)-(3)					
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	情報システム論								
教科書	「SQL ゼロからはじめるデータベース操作」 ミック著 (翔泳社)								
補助教材等	Webで補足資料を提示する。								
達成度評価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
	50	50							100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎							/
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○							
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
学習上の留意点および学習上の助言									
<p>情報システム全般の知識が必要である。            重要な事項について練習問題を課す。練習問題を解くことで、自身の理解度を把握する。            SQL文を丸暗記するのではなく、処理の仕組みを理解することが重要である。            SQL言語のリファレンスマニュアルを読み解くことが理解の手助けとなる。</p>									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス データベースの意義	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・データベースの目的と意義について理解できる。	第1回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
2	データベースの基礎(1)	・表計算ソフトとデータベースの違い、データベースの表現とデータモデル、データベースシステムのアーキテクチャを理解でき、図示できる。	第2回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
3	データベースの基礎(2)	・データベース管理システムの機能、データベース言語によるデータ操作、データベース設計の概要を理解し説明できる。	第3回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
4	データベース管理システムの操作環境	・データベース管理システムの操作環境を理解でき、使用することができる。	第4回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
5	SQLの概要	・SQLの概要を理解し、説明できる。	第5回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
6	正規化	・正規化について理解し、説明できる。	第6回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
7	正規化の適用	・実際の例で正規化を行なえる。	第1回～第7回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
8	<b>中間試験</b>		
9	試験返却・解答解説 データの検索	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・データの検索について理解し、実行できる。	第9回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
10	データベースと表の操作	・データベースと表の操作について理解し、説明できる。	第10回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
11	データの入力、変更、削除	・データの入力、変更、削除について理解し、実行できる。	第11回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
12	表の結合	・表の結合について理解できる。	第12回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
13	問合せ結果の集合	・問合せ結果の集合について理解できる。	第13回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
14	副問合せ	・副問合せについて理解し、説明できる。	第1回～第14回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
	<b>期末試験</b>		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
<b>総授業時間数</b>			30 時間